

社会教育クローズアップ

部活動市町村担当者ミーティングを開催しました

〈休日の部活動地域移行に向けた具体的な取組の推進〉に向けて

本号では、5月に実施した担当者ミーティング及び各市町村教育委員会訪問時にわかった「困りごと」と「取組推進のポイント」を御紹介します。

「部活動地域移行」は、「学校教育」と「社会教育」の両側面が関わるものであり、学校（生徒・保護者・教職員）と地域の協働が必要であることから、協議会が主体となり、既存団体（少年団等）と連携を進めるなど着実に推進が図られている自治体もある一方で、「取組・推進に難しさを感じている」という意見もありました。

（担当者ミーティング グループ意見交換参加者より）



地域クラブの立ち上げ: 少年団の活動に中学生が参加していた実態を再整備して地域クラブとし、9年間の持続可能な体制ができた。

連携の問題: 他町村との連携の場合は距離によって練習時間の設定が難しい！指導者間で考え方の違い（勝敗へのこだわり、ガイドラインの理解等）が・・・。

要件整備の問題: 指導者の報酬をどのように設定するか？町バス活用の基準作りが必要では？実施種目はどのように決定するか？文化部の担い手がいない！

令和6年度部活動地域移行実施イメージについて

今年度は、「北海道部活動の地域移行に関する推進計画の概要」におけるスケジュール例では、「一部競技種目で試行実施、協議会等の会議で検証・改善」となっており、当局では以下のとおり、取組のイメージを示しました。推進には、右記の2点が大切です。

協議会等が担うと想定される役割

フェーズ①

地域の生徒・教員・保護者における地域移行のニーズを把握する。

地域移行できる競技等や求められる活動方針などの情報を集める。

フェーズ②

地域移行するための検討のためリソース（指導者・場所・財源など）を把握する。

ニーズに応えることが出来る環境があるかを把握する。

フェーズ③

地域クラブへ移行する競技を決定する。

把握した情報等を元に、協議会等において、地域クラブへ移行する競技・時期などを決定する。

フェーズ④

一部競技において地域クラブへの移行を実施する。

地域にある競技団体（少年団・競技団体など）と協働し中学生部門を設立するなど、一部地域移行を実施する。

段階的に実施

推進のポイント①

地域の子ども、住民の「やりたい・続けたい」活動（スポーツ、文化活動等）をどう守るかの視点をもつ

推進のポイント②

できることから小さな一歩を踏み出し、取組を積み重ねていく

部活動地域移行の目指すところは、「子どもたちの成長のために、地域の実情による体験格差を解消すること」にあります。十勝教育局としましては、目的を改めて共有し、引き続き、各市町村における取組の推進が図られるよう、サポートしてまいります。

【発行・お問合せ先】

北海道教育庁十勝教育局

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班（皆川・福原）

住所：〒080-8588 帯広市東3条南3丁目

電話：(0155) 26-9243（直通） 平日 8:45～17:30

E-mail：fukuhara.natasumi@pref.hokkaido.lg.jp